

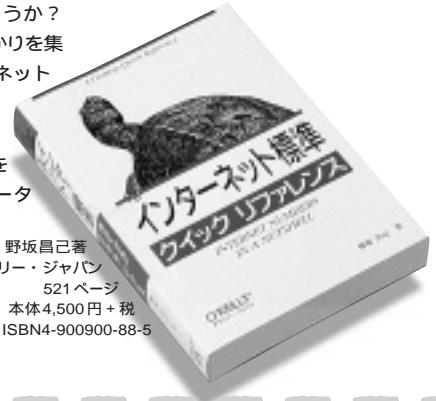
すぐ情報にたどり着くために

『インターネット標準 クイックリファレンス』

セキュリティを考へて、ルーターの設定でIPフィルタリングを行おうとしたとき、WWWブラウザからのアクセスに使われるhttpのポート番号はいくつだったかなあと思うときがある。また、電子メールのヘッダー情報を見てみると見慣れない項目があったが、なにを意味するのかちょっと思い出せないといったこともある。インターネットで定められた定数とかフォーマットなどは、RFC

(Request For Comments)に記載されているため、RFCドキュメントをネットワークからダウンロードすれば読むことができる。しかし、ちょっとした確認のためにドキュメントを探してダウンロードするの面倒くさいから、参照するデータが手元にあればいいのになと思うことはないだろうか？本書は、そんなデータばかりを集めたリファレンス本だ。ネットワークの設定をするとき、情報を解析するとき、ネットワークのプログラムを作るときなどに便利なデータ

が、RFCから抜き出して分類されている。RFCの解説文はないので詳しく理解するときには向かないが、データの参照をするならとても便利に活用できる。付録のRFCドキュメント番号とタイトルの対応リストなども充実しているため、参考にしてみるといいだろう。



野坂昌己著
オライリー・ジャパン
521ページ
本体4,500円+税
ISBN4-900900-88-5

最終回

インターネットの技術がひと目でわかる

菊地宏明 Hiroaki Kikuchi

知られざる歴史がいま明かされる

『インターネットヒストリー』

たった30年前に始まったことで、インターネットの創生にかかわった人々がいるにもかかわらず、まだその詳細は伝えられていない。本書は、インターネットを生み、育て、文化を築いていった人々のインタビューからなる歴史書だ。ここではインターネットという壮大なコミュニケーションを生み出した神々の神話が綴られている。とはいえ、彼らは企業の研究員や大学の学生であり、教育機関、民間企業も初期の段階でプロジェクトに参加している。このことから、研究者が軍事利用目的だけでネットワークを構築していたわけでないことがすぐわかる。また、研究者が冷戦の恐怖をもとに軍に研究開発費を出させたといわれていることにも背ける。それぞれのインタビューに、今まで知られていなかったエピソードが散りばめられ、インターネットの創生期が新鮮に感じられた。



Neil Randall 著
村井 純監訳
田中りゅう、村井佳世子訳
オライリー・ジャパン
389ページ
本体2,300円+税
ISBN4-900900-92-3

「インターネットは、冷戦下の米国が、核攻撃によって情報システムを破壊されることを防ぐため、情報をネットワークで分散化させる目的で作られた」と、多くのインターネット入門書で呪文のように唱えられている。しかし、軍事関係者の話が出てこないのはなぜなんだろう。研究者たちは、本当に軍事的な目的を果たすためにインターネットを作り上げたのだろうか？ た

これでもう専門書はいらない

『できるOCNエコノミー』

超簡単入門書で人気のインプレス「できるシリーズ」が、OCNエコノミーを解説している。「OCNとは、また、インターネットとはなにか？」という疑問から始まり、これでOCNエコノミーに接続する解説まで進めるのだろうかと心配されたのだが、要点をおさえた解説を中心に進むため、さすがに「できるシリーズ」と感心してしまう。面倒なOCNエコノミーの申し込みに関しては、書類の書き方に加え、記入のヒントを多くそろえているのがうれしい。オロオロしがちな工事日の対応もちゃんと書かれている。機種に依存するルーターの設定になると、YAMAHA RT50iを例に出して進んでいるが、NTT IPMATE1200 RD、NTT-ME MN128-SOHO SL11、NEC COMSTARZ ROUTERの3機種は画面ダンプを添えた設定解説がなされている。メール、ウェブサ-

ーは、OCN側で提供されるサービス「オリジナル・ドメインMail」と「オリジナル・ドメインWeb」を使っての設定を解説することで、初心者でも十分使いこなせるようにしている。クライアントパソコンにはウィンドウズ、マッキントッシュが使える。最後は、引越しする際の対応に関するQ&Aなどで締めくくられており、巻末のFAX用紙を使って、インプレスの通販によるOCNエコノミーのコンサルティング申し込みまでできる。

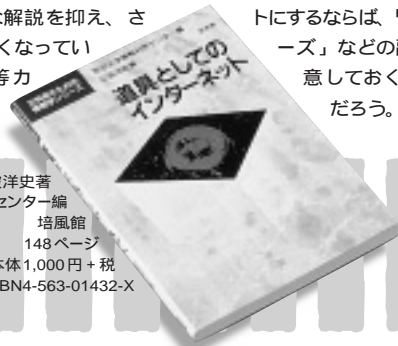


24seven コネクション&
インプレス書籍編集部編
インプレス
238ページ
本体1,800円+税
ISBN4-8443-1266-9

短期間でマスターできる

『道具としてのインターネット』

文科系のための情報学シリーズとして書かれた本書は、明治大学の初等情報教育の柱となるカリキュラムに合わせた内容となっている。インターネットの概要、利用についての解説を前半で行い、後半はWWW、電子メールとわずかにWAIS、Gopherを加えて情報収集の解説を行う。前半は解説に終始するが用語の説明に乏しいところがあるので、授業で参考書として利用する場合、講師が口頭で説明を補う必要がある。内容に関しては、技術的な解説を抑え、さっと読みやすくなっている。大学の初等カリキュラムレベ



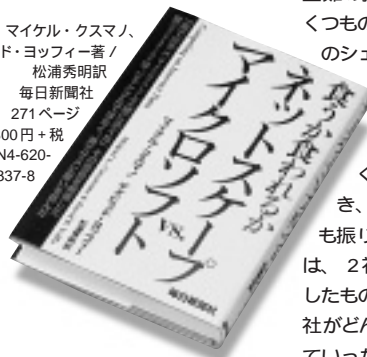
仙波洋史著
明治大学情報科学センター編
培風館
148ページ
本体1,000円+税
ISBN4-563-01432-X

ルなので、高校生が読んででも難しくはない。後半は実習を行いながら読むとちょうどよい内容だ。検索の参考となるURLが多く掲載されているので、実際にアクセスしてみると面白いだろう。検索テクニックなどにはあまり触れていないので、情報検索を使いこなすまでとはいかないが、道具として使えるようなことを実習するには十分である。全体は3か月程度の授業で消化できそうな量であり、街のインターネット入門教室のテキストとしても使える。ただし、具体的なパソコン設定や操作についての記述はないので、独学で学ぶテキストにするならば、「できるシリーズ」などの副読本を用意しておくほうがよいだろう。

勝つための戦略とは

『食うか食われるか ネットスケープ VS. マイクロソフト』

マイケル・クスマノ、
デイビッド・ヨッフィー著 /
松浦秀明訳
毎日新聞社
271ページ
本体1,800円+税
ISBN4-620-
31337-8



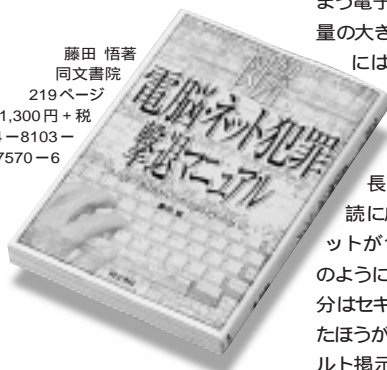
ネットスケープ社は、イリノイ大学で開発されたWWWブラウザ「Mosaic」の開発者たちがサブアウトして新規開発した高性能WWWブラウザ「ネットスケープナビゲーター」をリリースした会社として有名である。当時、まだインターネットの大ブームは起きておらず、パソコン向けソフトウェアの巨人マイクロソフトですら、インタ

ーネットに食指が動いていなかった。パソコンで動作するソフトウェアの分野でトップシェアをとるのは至難の技であった80年代から、いくつもの企業が、パソコンソフトでのシェア争いでマイクロソフトに敗れ去っていった。しかしネットスケープ社は、最初の製品を出すやいなや瞬間にシェアを勝ち取っていき、ついにはマイクロソフトをも振り向かせることになる。本書は、2社の対立を表面的に書き記したのではなく、ネットスケープ社がどんな戦略でビジネスを展開していったのかを、「マイクロソフトの秘密」の著者、マイケル・クスマノ自身が、ネットスケープ社の協力のもとに描き出したものである。内容的にはAOLにより買収される前で終わっている。本書を読みると、ブラウザ戦争の勝者であるマイクロソフトに敗れ去ったかに見えたネットスケープのほうが、したたかに自社に有利な活路に進んだように思える。

いま暴かれるネットワーク犯罪の手口

『図解 電腦・ネット犯罪 撃退マニュアル』

藤田 悟著
同文書院
219ページ
本体1,300円+税
ISBN4-8103-
7570-6



犯罪などから身を守るためのアイデアを紹介した人気の図解マニュアルシリーズ。インターネットにかかわる犯罪を紹介し、回避方法、防御策などを紹介する。前半は、犯罪事件などの事例から、ネットワークを使った詐欺犯罪の手口、防止方法を紹介している。中盤から犯罪者のクラッキング事件の話題となるが、技術的な話になると解説はおぼつかなくなる。ゴミメー

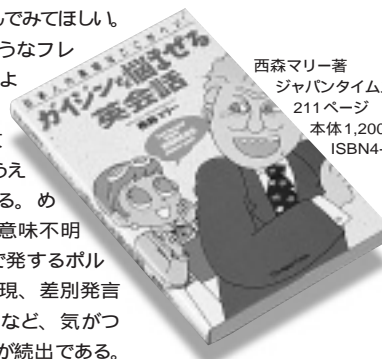
ルを大量に送りつけてメールサーバーのディスク容量を食いつぶしてしまふ電子メール爆弾の解説に、「容量の大きな添付ファイルがある場合には受け取れないほうがいい」とコメントしてあったり、暗号キーのビット長と安全性の解説では、「2桁の長さの鍵では99回試せば解読に成功できる」と、まるでビットが10進数と同等の情報量かのように書かれている。これらの部分はセキュリティの専門書に任せたいほうがいいだろう。後半は、アダルト掲示板で女性になりすまして、男性からの返事をもらう実験をしたり、メールアドレスの名簿リスト販売業者からリストの一部を購入する実験などが取り上げられている。ここまでくると度が過ぎる。かつて一部のマスコミが実験としてチェーンメールを出そうとして反感を買ったことが思い出される。犯罪の危険性を認知するうえではいいが、犯罪に使われぬよう気をつけたい。

アナタノ英語ダイジョウブ?

『ガジンをごまかせる英会話』

テレビの深夜番組で、海外の映画や商品に見られるおかしな日本語を紹介するバラエティーコーナーがあり、「なんだこれ? 変なの」と思いながらよく見ている。日本語っぽいけれど、全然意味が分からないケンセンスさが笑いを生むわけである。「もし、我々が英語で、英語を母国語とする人に誤解を招くスゴイことを言っていたら」と考えたことがあるだろうか? もしあるのならば、ぜひ読んでみてほしい。つい使ってしまうようなフレーズをガジンとはどのように解釈して受け取っているのかを、文化の違いを踏まえうえで解説してくれている。めちゃくちゃな表現、意味不明な和製英語、真顔で発するパルノ的表现、横柄な表現、差別発言と受け取られる表現など、気がつけば赤面モノの表現が続出である。

たとえば、「私は彼と親しいです」と英語で言ったつもりが、相手には「私は彼と性交渉があります」というキワドイ意味に受け取られていたりといった具合だ。電子メールやチャットで英文を書く機会が増えるなか、恥ずかしい思いをしないためにも読んでおくといいたい。あまりに恥ずかしいことが多い人はとても読み続けられないだろう。それでも、付属の和製英語とネイティブ英語の変換表は便利である。



西森マリー著
ジャパンタイムズ
211ページ
本体1,200円+税
ISBN4-7890-0971-8



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp